

Contents

- [Introduction](#)
- [Connecting MixPad to an SQ using a router](#)
- [Overview](#)
- [Using the app connected to an SQ](#)
- [Offline mode](#)
- [Troubleshooting](#)
- [Screen Navigation](#)
- [Further Help](#)

▲ Introduction

SQ MixPadを使用すると、ネットワーク接続を介してSQデジタルオーディオミキサーを制御でき、主にタブレットでのワイヤレス使用を目的としています。

2つのSQ MixPadデバイスをSQと使用し、合計3つの制御を可能します。

アプリとSQファームウェアは同じファームウェアリリース番号を共有する必要があります。

例えば

SQ firmware V1.4.0 and SQ MixPad V1.4.2 = 相互性があります。
SQ firmware V1.3.2 and SQ MixPad V1.4.2 = 相互性がありません。

このため、モバイルデバイスでSQ MixPadの自動更新をオフにして、ファームウェアとアプリを手動で更新し、互換性を保証することをお勧めします。

最新のSQファームウェアリリースおよびリファレンスガイドについては、www.allen-heath.comを確認してください。

このガイドは、ユーザーがSQの操作と設定に精通していることを前提としており、SQリファレンスガイドの付属書として意図されています。

▲ Connecting MixPad to an SQ using a router

同帯域を使用する他のデバイスの接続による中断やドロップアウトを避けるために専用ルーターの使用をお勧めします。ほとんどの「既製の」ルーターは動作しますが、使用される状況に適したルーターを選択する必要があります。

例えば、他の多くのワイヤレスデバイスが設置されている場所での長距離ワイヤレスの使用には、より強力なルーターが必要になります。

- システムはローカルエリアネットワーク (LAN) で実行され、インターネット接続は必要ありません。
- 標準のネットワークケーブルを使用して、SQの背面にあるネットワークポートをルーターのLANポートに接続します。ルーターの指示に従っている場合は、コンピューターを接続するのと同じ方法でSQを接続できます。ルーターが新しい場合、SQで使用する前にコンピューターを使用してセットアップする必要がある場合があります。

- デフォルトでは、SQはDHCPを使用してアドレスを自動的に受信するように設定されています。SQおよびリモートデバイスでDHCPを使用して、互換性のあるIPアドレスを割り当てる必要があります。静的IPアドレスを割り当てる場合、それらが同じ範囲にあり、同じ最初の3つの値を共有していることを確認してください。例えば、192.168.1.***.
- [設定]> [ネットワーク設定]画面で、SQのIPアドレスを確認および調整できます。
- 接続すると、SQの背面にあるLnk LEDが点滅して、ネットワークアクティビティを示します。
- SQ MixPadを実行しているデバイスを同じネットワークに接続し、デバイス上で再度IP範囲を確認します。
- mix-config、ルーティングに関してSQをセットアップし、すべてのリモートオーディオユニットが接続されていることを確認します。
- SQ MixPadを開きます。すべてが正しく接続されている場合、SQが[ユニットの選択]リストに実行可能なユニットとして表示されます。ユニットをタッチ/クリックして選択し、[接続]ボタンをタッチ/クリックします。
- アクティブなユーザーリストから選択し、パスワード（設定されている場合）を入力し、[ログイン]ボタンをタッチ/クリックします。（ユーザーのアクセス許可とパスワードは、[セットアップ]> [ユーザー]画面のSQを使用して設定します）。
- ユーザーリストが表示され、以降のログインでパスワードが要求されないようにするには、[Remember Me]ボックスにチェックマークを付けます。これは、アプリの実行中にのみ適用され、アプリを再起動するには常にログインが必要です。

*Choose Unitリスト内の2つの「ユニット」は次のとおりです。

- **オフライン**-SQコンソールに接続せずにショーを編集できます。
- **その他**-接続するSQのIPアドレスを指定できるポップアップを表示します。ルーターの設定によりミキサーがアプリによって自動的に検出されない場合に使用します。



- 1 スクリーンメニュー：プロセッシングはメインコントロール画面、メーターはすべてのレイヤーとRTAのメーター表示、シーンはグローバルフィルターとセーブ設定、セットアップは使用可能なSQおよびMixPadセットアップオプション、IOパッチはパッチマトリックスを表示します。
- 2 接続されたデバイス：接続されたコンソールのネットワーク名を表示します。
- 3 セッションメニュー：ログアウトおよびプル（SQからデータを引き出す）オプションがあります。
- 4 選択されたチャンネル：現在の選択の名前とチャンネルを表示します（タッチしてチャンネル名/色を編集します）。
- 5 プロセッシングセレクト：プロセッシングブロックをタッチ/クリックして、パラメーターを表示および調整します。拡張プロセッシング画面では、SQのグラフィックと同様のグラフィックで表示されます。
- 6 スクリーン分割：タッチ/クリックして上下にドラッグすると、プロセッシングとフェーダー（デフォルト）、拡張プロセッシング（下にドラッグ）、または拡張フェーダー（上にドラッグ）のいずれかが表示されます。
- 7 メーターとブロックの選択：現在選択されているレイヤー上のすべてのチャンネルストリップのメーターを表示します。タッチ/クリックしてストリップのブロックにジャンプすることもできます。
- 8 レイヤーの選択：チャンネルタイプまたはレイヤーのいずれかをタッチ/クリックして、チャンネルストリップを表示します。
- 9 カスタム/標準レイヤー：タッチ/クリックしてレイヤータイプを切り替えます。拡張フェーダー画面には両方のタイプが表示され、ボタンは消えます。拡張プロセッシング画面では、この変更により、プロセッシングまたはレイヤー画面の選択が可能になります。
- 10 パラメータープロセッシング：グラフィック表示またはパラメーター値ボックスをタッチ/クリックまたはドラッグで調整します。拡張プロセッシング画面では、より多くのパラメーターとグラフィックが表示されます。PEQ画面にHPFが表示され、ゲート画面とコンプレッサー画面にヒストグラムが表示されます。
- 11 次のスクリーン：プリアンプ画面でタッチ/クリックしてルーティングオプションを表示します。
- 12 PAFLメーター：SQで12セグメントメーターを複製します。

13

ミックス選択：ミックスボタンをタッチ/クリックして、フェーダーのセンドとそのミックスのマスターストリップを表示します。

14

チャンネルストリップ：標準では、名前、ミュート、選択したミックスへの送信、レベルメーター、コンプレッサーレベル低減、ゲートアクティビティ、PAFLボタンを表示します。拡張プロセッシング画面では、チャンネルが選択範囲のみに最小化され、選択すると、マスターストリップの代わりにチャンネルが表示されます。拡張フェーダー画面には、アサインとパンのオプションが表示されます。チャンネルをタッチ/クリックして選択します。選択したチャンネルは緑色でハイライト表示されます。

15

マスターストリップ：選択したミックスのマスターセンドを表示します。他のチャンネルと同じ方法で選択して、出力プロセッシングを調整できます。

▲ Using the app connected to an SQ

SQ MixPadは、SQとの間で制御メッセージを送受信します。音声の送受信は行いません。制御しているファームウェアの詳細については、リファレンスガイドを参照してください。

ログオンすると、SQ MixPadはSQのすべての設定を受け取ります。正しく同期するには、ミキサーの初期設定後、およびすべてのリモートオーディオユニットの接続後に、MixPadを接続する必要があります。

ワークフローはSQと同じです。

- センドオンフェーダーを表示および調整するためにミックスを選択します。
- レイヤーを選択し、次にチャンネルを選択してから、調整するプロセッシングブロックを選択します。

Note - SQ MixPadはSQユーザー権限に準拠しており、ブロックされたパラメーターまたはミックスは「グレーアウト」されるか、タッチ/クリックされたときにポップアップを表示します。SQ MixPadアプリを使用してSQにアクセスするには、ログオンするユーザーのユーザー権限でMixPadオプションを「許可」に設定する必要があります。

セットアップとナビゲーション

入力、ミックス、FX、DCA、ミュートグループ、ソフトキーの6つの「標準」レイヤーがあります。6つの**カスタム**レイヤーもあります。

カスタムレイヤーに表示するチャンネルを設定するには

- [セットアップ]画面に移動し、[カスタムストリップ]を選択します。
- トップバーのオプションをタッチ/クリックして、異なるチャンネルタイプを表示します。
- チャンネルをタッチ/クリックするか、上から下にドラッグアンドドロップして、レイヤーに割り当てます。
- 下から上にドラッグして割り当てを解除します。
- 下部にドラッグアンドドロップして並べ替えます。
- [クリア]ボタンをタッチ/クリックして、レイヤーをクリアします。
- 空白をドラッグアンドドロップして、スペーサーを追加します。
- [デスクレイヤーのコピー]をタッチ/クリックして、SQからレイヤーをコピーします。

セットアップ画面のMixPadセクションには、さらに多くのMixPadオプションが表示されます。

- **バンクスクロールのロック**- これがオンの場合、フェーダーを左右にスワイプしてレイヤー内の他のチャンネルを表示できなくなります。メーターブロック（フェーダーの上）をタッチ/クリックし続けると、ナビゲートできます。
- **チャンネルバンク表示** - 一度に8、12、または16チャンネル表示を選択できます。
- **SQミックスセレクトフォロー** - このオプションをオンにすると、MixPadはSQサーフェスのミックス選択に従います（**Note** -これは一方向に機能し、SQはMixPadで選択したミックスに追従できません）
- **SQチャンネルセレクトフォロー** -このオプションがオンの場合、MixPadはSQサーフェス上のチャンネル選択に従います（**Note** -これは一方向に機能し、SQはMixPadで選択されたチャンネルに追従できません）
- **ミックス名の表示**-このオプションがオンの場合、ミックス名はプロセッシング画面の右側に表示されます。ミックス番号を表示するには、オフを設定します。
- **デモメーター表示** -このオプションは、オフラインモードでデモメータリングをオンまたはオフに切り替えます。
- **SQモデル** -オフラインショーで使用するSQモデルを選択します。

レベルとプロセッシングパラメーターの調整

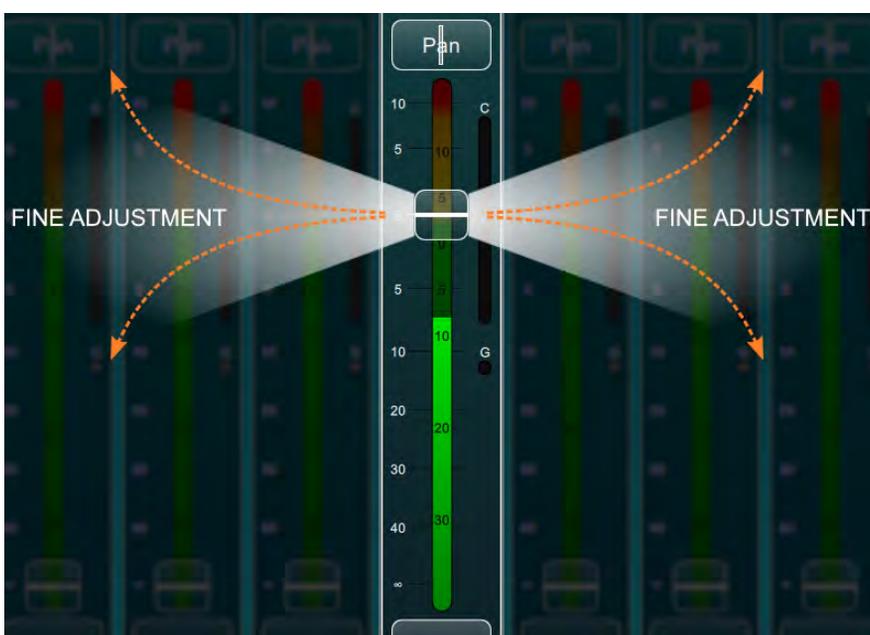
プロセッシングパラメーターを調整するには、プロセッシングブロック（入力チャンネルのプリアンプ、ゲート、PEQ、またはコンプレッサー）を選択します。次に、プロセッシンググラフィックのポイント、または調整するパラメーターボックスの値をタッチ/クリックしてドラッグします。

- PEQを制御する場合、スライドコントロールまたは「ピンチ」で帯域幅を制御できます。
- 水平方向の中央の分割線を下にドラッグして、さらにパラメーターを表示します。これには、プリアンプ画面でのチャンネル名と色の選択、およびPEQ画面でのHPFが含まれます。

微調整

パラメーター（フェーダーレベルを含む）を調整する場合、制御は2つの軸で機能します。片方の軸は値を増減し、他方の軸はコントロールを詳細に調整します。コントロール離れると、より細かな調整が可能になります。

たとえば、フェーダーをタッチ/クリックして上下にドラッグし、レベルを変更します。その後、フェーダーを選択したまま、左または右に移動すると、同じ上下の動きで変化が少なくなります。



コピー、ペースト、リセット

プロセッシンググラフィックまたはチャンネル名/フェーダーをダブルタップ (iOSまたはAndroid) または右クリック (Windows / Mac) して、MixPadで[コピー]、[ペースト]、[リセット]ポップアップを開きます。

SQの場合と同様に、個々のチャンネルプロセッシングまたは全体のチャンネルプロセッシングを、割り当てとミックスのセンドレベルとともにコピーできます。

メーターとRTA

- [メーター]をタッチ/クリックし、左側のレイヤーを選択して、そのレイヤーのすべてのメーターを表示します。レベル、ミュート/PAFLステータス、ゲートアクティビティ、ゲインリダクションが表示されます。
- RTAボタンをタッチ/クリックして、メーターを縮小し、RTAを表示します。

Notes -

- RTAは常にPAFLの選択に従い、MixPadのチャンネルでPAFLを押すと、SQの同じPAFLチャンネルも選択されます。
- RTAは各周波数帯域のレベルを表示し、メーター上に赤いインジケーターが付いた最も顕著な周波数を示します。RTAはすべての出力処理でGEQディスプレイにも送られ、最も顕著な周波数帯域は赤で示されます。これは、フィードバックの原因となる周波数を見つけるのに役立ちます。

パッチ

- IOパッチをタッチ/クリックして、パッチマトリックスを表示します。
- タッチ/クリックしてドラッグし、マトリックス内を移動し、タッチスクリーンデバイスで「ピンチ」するか、マウスを使用している場合はスクロールホイールを使用してズームインまたはズームアウトします。マトリックスボックスをタッチ/クリックして、パッチを作成または削除します。
- パッチを斜めにブロックするには、パッチブロックが青色で強調表示されるまでタッチ/クリックしてホールドし、斜めにドラッグしてパッチを作成します。

Notes -

- 入力にパッチを当てると、入力ソースが上部に表示され、SQのパッチ先チャンネルが左側に表示されます。
- 出力にパッチを当てると、SQチャンネルのソースが左側に表示され、出力ソケットとパッチ先が上部に表示されます。
- タイラインにパッチを適用すると、入力が左側に表示され、出力が上部に表示されます。

▲ Offline mode

MixPadのオフラインモードを使用すると、SQに接続せずに重要なパラメーターを編集し、ショーのシーンを管理できます。また、複数のショーを簡単に管理でき、SQのネットワーク接続してショーを送信（プッシュ）および受信（プル）できます。

アプリの起動時に[Choose Unit **ユニットの選択**]リストから[Offline **オフライン**]を選択すると、オフラインモードになります。オフラインモードに切り替えるオプションも、SQからショーをプルした直後に表示されます。

ショーをプッシュまたはプルするには、正しいSQユーザー権限が許可されていることを確認する必要があります。これらは、Sync Push **シンクプッシュ**およびSync Pull **シンクプッシュ**として、SQ Setup> Users> Setup Permissions画面にあります。

ショー全体をSQ MixPadとの間で転送するために、転送が開始されると、他のリモートデバイスはすべて切断されます。転送が完了すると、デバイスを再接続できます。

テンプレート/デフォルトショー

1. [ユーティリティ]> [ショー]に移動し、[新規...]をタッチ/クリックします。
2. 使用するSQモデルのテンプレートを選択します。これらのテンプレートショーにはシーンが含まれておらず、SQでハードリセットを実行したときと同じ設定が含まれています。

Notes -

- SQ MixPadの新規インストールで、オフラインモードを開くと、SQ-7テンプレートショーが読み込まれます。
- MixPadテンプレートショーには、SQのすべてのショーパラメーター（MixPadで編集できないものを含む）のデフォルト設定が含まれるため、MixPadテンプレートとして開始されたショーを押すと、未編集のSQパラメーターがすべてデフォルトにリセットされます。たとえばサーフェイスLED /輝度設定など。頻繁に使用するデフォルト以外のSQセットアップがある場合は、最初にSQでセットアップし、それをMixPadにプルして、個人用テンプレートとして使用するローカルショーとして保存することをお勧めします。

ショーのプル (SQ to MixPad)

1. オンラインまたはオフラインモードで、左上のセッションメニューに移動し、[プルショー]を選択します。
2. SQで、[ユーティリティ]>[データ]>[シンク]画面に移動し、[シンクモード]ボタンをタッチし、画面の指示に従ってシンクモードに入ります。
3. SQからのショー全体がMixPadのオフラインモードにプルされます。
4. プルしたショーをすぐに保存するオプションが表示されます。ショーを個別に保存する必要はありませんが推奨され、必要に応じて後で戻ることができます。
5. オフラインモードには、編集のためにSQからプルされたショーが含まれます。

Notes -

- SQからショーが「プル」されると、MixPadのオフラインモードでロードされたショーは完全に上書きされるため、ショーをプルする前に行ったオフラインの変更を保存することをお勧めします。
- SQと同様に、MixPadは一度に1つのショーをロードできます。ただし、複数のショーを各MixPadデバイスにローカルに保存できます。
- MixPadはすべてのショーデータをプルするため、標準設定でショーをプルし、それを保存して個人用テンプレートとして使用することをお勧めします。
- シンクモードは一度に1つのデバイスに接続し、他のデバイスはデータが正しく転送されるように切断され、転送が完了するまで再接続できません。

ショーのプッシュ (MixPad to SQ)

1. オフラインモードでは、左上のセッションメニューに移動し、[プッシュショー]または[プッシュショーへ...]を選択します。
2. [プッシュショー]を選択すると、[ユニットの選択]リストが表示され、ショーをプッシュするSQを選択できます。[プッシュショーへ...]を選択すると、リストがバイパスされ、最後に接続されたSQが選択されます。
3. SQで、[ユーティリティ]>[データ]>[シンク]画面に移動し、[シンクモード]ボタンをタッチし、画面の指示に従ってシンクモードに入ります。
4. SQ MixPadのオフラインモードで現在ロードされているショー全体が、SQにプッシュされます。

Notes -

- ショーがSQに「プッシュ」されると、現在SQにロードされているショーは完全に上書きされるため、ショーをプッシュする前にデスクで行った変更をUSBデバイスに保存することをお勧めします。
- MixPadショーにはすべてのショーパラメーター（MixPadで編集できないものを含む）の設定が含まれているため、編集されていないすべてのパラメーターも上書きされます。たとえば、サーフェイスLED / 輝度設定など。頻繁に使用するデフォルト以外のSQセットアップがある場合は、最初にSQでセットアップし、MixPadにプルして、個人用テンプレートとして使用するローカルショーとして保存することをお勧めします。
- シンクモードは一度に1つのデバイスに接続し、他のデバイスはデータが正しく転送されるように切断され、転送が完了するまで再接続できません。

パラメーターの調整

すべてのオフラインパラメーターは、オンライン時とまったく同じ方法で調整されますが、SQにライブで変更を加えるのではなく、オフライン状態に変更を加えます。オフライン状態は、オフラインシーンに保存できます。

Libraries

ファクトリーライブラリーが使用可能な場合は、スクリーンメニューの左側にある**Lib**ボタンが点灯します。これを選択するとポップアップが開き、プリセットを呼び出すことができます。

インプットチャンネルのプロセッシングライブラリーを開くと、2番目のタブが表示され、インプットチャンネルのすべてのプリセットを表示したり呼び出したりすることができます。

ライブラリーは、さまざまなRackFXユニットのリコールにも使用されます。FXセンドまたはFXリターンを選択すると、FXライブラリーを開くことができます。

SQモデルの変更

使用可能なローカルソケットや、レイヤーに追加できるストリップの最大数など、一部の設定はモデルによって異なります。初めて設定する場合、またはモデル間でショーを変換する場合は、使用するSQモデルを正しく選択してください。これは、**[設定]>[MixPad]** 画面の **[オフライン]** セクションで行います。

オフラインシーンとショーの管理

MixPadのオフラインモードは、SQと同じように動作します。

- 一度に1つのショーをロードできます。これには、すべての表示レベル設定と最大300のシーンが含まれます。
- 調整されている現在の「状態」は1つだけで、これはシーンに保存できます。
- シーンをリコールすると、リコールされているシーンの内容で現在の状態が上書きされ、調整を行ってシーンを再度ストアできます。

Note -

モバイルデバイスを使用する場合、データはストアされ、デバイスメモリーからリコールされます。このため、手動で削除またはアンインストールすると、保存されているすべてのデータが削除されます。

PC(WindowsまたはMac)を使用している場合は、**Utility>Shows**画面の下部に直接設定する必要があります。SQでフォーマットされたUSBデバイスでショーを操作するには、**'[USBドライブ]:/ AHSQ/ SHOWS'**に設定する必要があります。つまり、ショーをUSBデバイスに保存した後にSQで使用できます。

Note -

デスク、ショー、シーンの各レベルに保存されている各種パラメーターや設定については、SQリファレンスマニュアルを参照してください。

新しいシーンを保存するには

1. **プロセッシング**画面でパラメーターを調整します。
2. **シーン**画面に移動し、空のシーンスロットを選択します。
3. **[ストア]** ボタンを使用してシーンをストアします。

シーンをリコールするには

1. **シーン**画面に移動し、シーンを選択します。
2. **リコール**ボタンを使ってシーンをリコールします。

Note - シーンフィルターはMixPadで認識されないため、フィルタアイコンは表示されますが、リコールに影響するのはグローバルフィルタ設定のみです。

シーンを編集するには

1. **シーン**画面に移動し、編集するシーンを選択します。
2. **リコール**ボタンを使ってシーンをリコールします。
3. **プロセッシング**画面でパラメーターを調整します。
4. **シーン**画面に戻ります。
5. 同じシーンが選択されていることを確認します。
6. **保存** ボタンを使用し、プロンプトが表示されたら、シーンを上書きすることに同意します。

新しいショーを保存するには

1. すべてのショーレベル設定を調整し、ショーのシーンを保存します。
2. **[ユーティリティ]>[表示]** 画面に移動します。
3. ショー全体を保存するには、**[新規保存]** ボタンを使用します。

ショーを呼び出すには

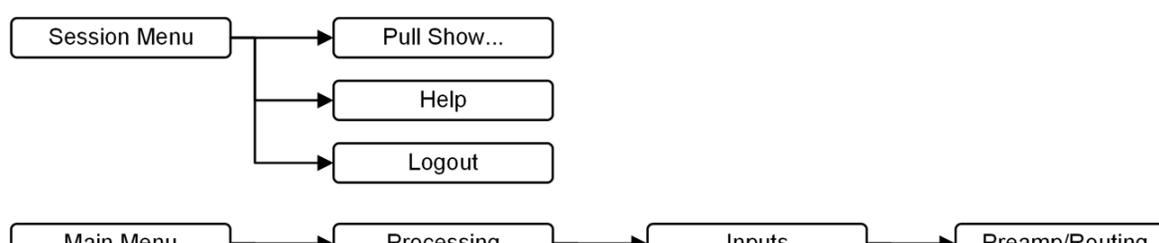
1. **[ユーティリティ]>[表示]** 画面に移動し、表示を選択します。
2. **リコール**ボタンを使って、ショー全体とすべてのシーンをリコールします。

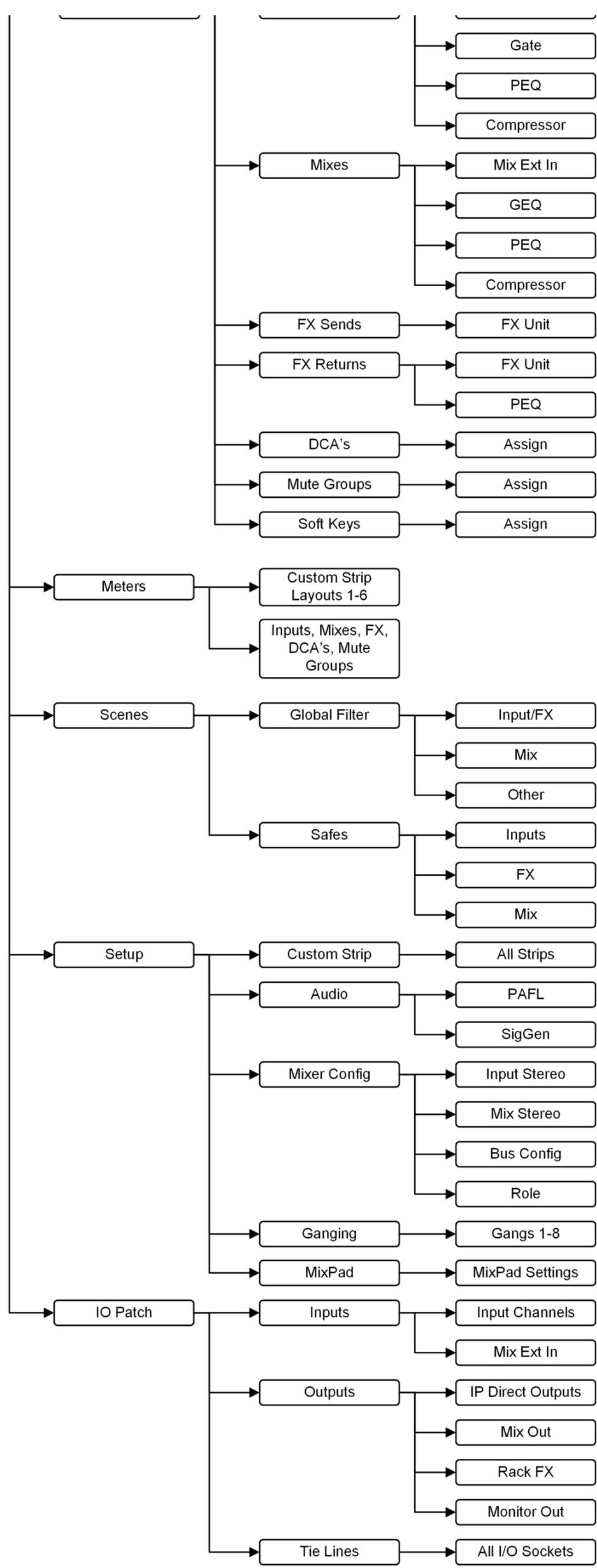
ショーを編集するには

1. **[ユーティリティ]>[ショー]** 画面に移動し、編集するショーを選択します。
2. **リコール**ボタンを使用して、ショーをリコールします。
3. すべての表示レベル設定とシーンを調整します。
4. **ユーティリティ>ショー**画面に戻ります。
5. 同じ表示が選択されていることを確認します。
6. **上書き**ボタンを使用し、プロンプトが表示されたら、表示を上書きすることに同意します。

▲ Screen Navigation

Online Navigation





Offline Navigation

